opusdei.org

黙想の祈り:待降節 第2金曜日

黙想のテーマ:「神のインスピレーションへの従順」「神の視点から現実を見る」「主と出会うための準備」。

神のインスピレーションへの従順

神の視点から現実を見る

主と出会うための準備

イエスの教えは、普段の生活の出来 事からアイデアを得ています。それ

は理解を容易にするためでした。漁 師には船と網について話し、農夫に は種と収穫について話し、主婦には 家庭の日常業務について話しまし た。今日のミサの福音書にも同じこ とが当てはまります。イエスの教え に対する宗教権威者たちの冷たい反 応の後、イエスは心に痛みを覚え、 次のように言いました。「今の時代 を何にたとえたらよいか。広場に 座って、ほかの者にこう呼びかけて いる子供たちに似ている。『笛を吹 いたのに、踊ってくれなかった。葬 式の歌をうたったのに、悲しんでく れなかった。』」(マタイ11・ 16-17)

当時のユダヤの宗教権威者たちは、神の御子から福音を聞く恵みを受けたにも関わらず、何も変えず、以前と同じように生きていくことにしました。一方、多くの単純で謙虚な人々は、信仰をもってイエスの言葉を受け入れました。それゆえ、イエ

スは後に御父に向けて次の祈りを捧げます:「「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました」(マタイ11・25)。

待降節の間、主はイエスの誕生を祝 う準備をするよう、私たちを招きま す。私たちが人生において神の賜物 をどのように受け入れてきたか、 じっくりと振り返る機会です。私た ちは小さく謙虚な人々のように神の 言葉を聞き、それを実践しているで しょうか?それともイエス・キリス トの呼びかけを拒絶した、自己の知 恵や賢さを確信していた当時の宗教 権威者のような態度を取っているで しょうか?「素直であることが第一 です。聖霊はその勧めによって、私 たちの思い・望み・働きに超自然的 な色合いを添えてくださる御方 (…) です。人々にキリストの教え

を深く吸収させ、従わせるように導

く御方、各個人の使命を自覚させ、神のお望みをすべて果たすための光をお与えになる御方は聖霊です。聖霊に素直に従うなら、キリストの似姿が私たちの中で次第に形づくいられ、日毎に父である神に近づいて行くことでしょう。『神の霊によって導かれる者は皆、神の子なのです』(ローマ8・14)」団。

「ヨハネが来て、食べも飲みもしないでいると、『あれは悪霊に取りつかれている』と言い、人の子が来て、飲み食いすると、『見ろ、大食漢で大酒飲みだ。徴税人や罪人の仲間だ』と言う」(マタイ11・18-19)。イエスは、多くの人々が洗礼者聖ヨハネの悔い改めの呼びかけや自身の福音に耳を貸さなかったことに指摘します。

実のところ、これらの人々は洗礼者 聖ヨハネの内にエリヤを見ることが できず、イエスの内にメシアを見る ことができませんでした。おそら く、彼らは自分たちの意見や偏見に 固執しすぎていたため、彼らに語り かけていたのが誰なのか、気付かな かったのでしょう。「神の唯一の願 いは人類を救うことです。しかし 往々にして問題は、人間が、自分が どのように救われるのか、自分で決 めたいと望むことにあります (…)。 私たちもまた、一人ひとり この問題を抱えています。ですか ら、私たちが次のように自問するこ とは有益です。私はどのように救わ れたいのだろうか?私のやり方で救 われたいのだろうか? | [2]。

私たちが神のインスピレーションに 耳を傾ける恵みを主に願いましょ う。超自然的な観点を持ち、私たち を取り巻く人々や出来事を通して語 られる神の声に耳を傾けましょう。

そのためには、観想生活に私たちを 導く、神との頻繁な交わりを大切に
 することが重要です。同時に私たち の想定を超えた神の創造性に対して 開かれた態度を取り、思い込みに よって神の働きを勝手に決めつけな いことが大切です。そのようにすれ ば、イザヤの預言が私たちにおいて 成就することでしょう。「わたしの 戒めに耳を傾けるなら、あなたの平 和は大河のように、恵みは海の波の ようになる。あなたの子孫は砂のよ うに、あなたから出る子らは砂の粒 のように増え、その名はわたしの前 から、断たれることも、滅ぼされる $2 + 48 \cdot 18 - 19$

「主は来られる。平和の王である主 を迎えよう」 (3)。 今日のミサの祈り は賢いおとめたちのたとえを示唆 し、新郎の到来に備えて、私たちが 彼女たちに倣うよう招きます。

イエスは天の国を次のようにたとえ ます:「十人のおとめがそれぞれと もし火を持って、花婿を迎えに出て 行く。そのうちの五人は愚かで、五 人は賢かった。愚かなおとめたち は、ともし火は持っていたが、油の 用意をしていなかった。賢いおとめ たちは、それぞれのともし火と一緒 に、 売に油を入れて持っていた | (マタイ25·1-4)。このたとえは、 いつ来るかわからない、花婿との最 終的な出会いへの準備が常に十全で あるようにという招きです。つま り、私たちが神と隣人への愛で常に いっぱいであるようにという招きで す。言い換えれば、最高の善に目を 向け、幸福になるために選ぶべき適 切な道を識別し、その道を歩むため に自分の身の振り方を定めるという ことです。これが、ベツレヘムに生 まれる、教会の花嫁であるイエス・

キリストとの出会いを準備する油です。

ミサの叙唱は次のように祈ります。 「キリストはいま、その誕生の神秘 を祝う喜びをお与えになり、わたし たちはたえず目ざめて祈り、賛美し ながら主を喜び迎えます | 園。私た ちが絶えず目覚めて祈り、主のこと をいつも最優先にするなら私たち は、賢いおとめたちのようであると 言えるでしょう。「数分間の念祷、 できれば毎日のミサ、また、しばし ば聖体拝領をすること、大罪がなく とも定期的にゆるしの秘跡にあずか ること、聖体訪問、ロザリオの祈り と神秘の黙想、その他すでにご存じ の、あるいはこれから学ぶことので きる、数多くの信心のわざがありま す 1 1570

私たちの母である聖母マリアの取り次ぎを願いましょう。私たちが従順 さと超自然的な視点をもって、聖母 の御子の到来を準備することがでイスを準備することがでイスを表したいまた新たにでイスの誕生に感嘆したいと望んでいまります。 「信じる神よ、のおるであるであるとはできます。 燃迎るとができますように」 [6]。

[1] 聖ホセマリア、『知識の香』、135番。

[2] フランシスコ、説教、2014年10 月3日。

[3] 待降節第2金曜日、アレルヤ唱。

[4] 叙唱、待降節2。

[5] 聖ホセマリア、『神の朋友』、 149番。

[6] 待降節第2金曜日、集会祈願。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-taikousetsu2-kinyou/(2025/12/16)